

まちづくり交付金 事後評価シート
藤と紫陽花が彩るにぎわい交流地区

平成18年12月

埼玉県 騎西町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県	市町村名	騎西町	地区名	藤と紫陽花が彩るにぎわい交流地区
計画期間	平成16年度～平成18年度	まちづくり交付金交付期間	平成16年度～平成18年度		
モニタリング実施時期	-	事後評価実施時期	平成18年4月～12月	フォローアップ実施時期	平成19年度

1) 事業の実施状況	当初計画どおり実施した事業	新道上土地区画整理事業（基幹）、紫陽花苗等植栽事業（提案）
	当初計画から変更した事業（変更した内容）	総合公園整備事業（基幹）、紫陽花ロード整備事業（基幹）、県指定天然記念物の藤棚事業（提案）
	変更した理由、目標・数値指標への影響等	総合公園整備事業……植栽や駐車スペースの余裕がある計画であったが、施設の精査により、当面、必要な施設整備を優先することになり、規模を縮小（目標・数値指標への影響はなし） 紫陽花ロード整備事業……当初計画していた紫陽花ロード等説明板設置事業及び紫陽花ロード遊歩道・休憩施設設置事業の2つの事業を整理、統合し、併せて紫陽花散策路整備を追加（目標・数値指標の改善への貢献を見込む） 県指定天然記念物の藤棚事業……藤祭りの主役でもある大藤の修景整備を図ることにより、大藤の魅力の増大や祭りの発展、継続に結びつくことから新たに計画（目標・数値指標の改善への貢献を見込む）

2) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況	指標		単位	達成度			達成見込みの有無		効果発現要因
	モニタリング	事後評価		フォローアップ	あり	なし	総合所見		
指標1	藤祭り、紫陽花祭りの来場者	人							各事業を行った事により、藤と紫陽花による景観づくり及び観光地の形成が図られたことで、例年並みの来場者数をクリアすることが出来た。更に周辺環境を整備し、積極的にPR活動を行うことで観光客、来場者数の増加を促進していきたい。
指標2	公共施設の利用者	人/年							各事業がうまく組み合わせられ、相乗効果が引き出されたことによる間接効果によって、目標値を大きく上回る利用（入館）者となった。
指標3	地区内の居住人口	人							土地区画整理事業により整備した公園に藤と紫陽花による植栽を施すなど、騎西町らしい花のある快適な住環境整備を行ったことにより、保留地処分等への間接効果が得られ、目標値を達成することが出来た。
指標4									
指標5									

3) その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指標		単位	従前値		数値		効果発現要因
	モニタリング	事後評価		基準年度	フォローアップ	総合所見		
その他の数値指標1								
その他の数値指標2								
その他の数値指標3								

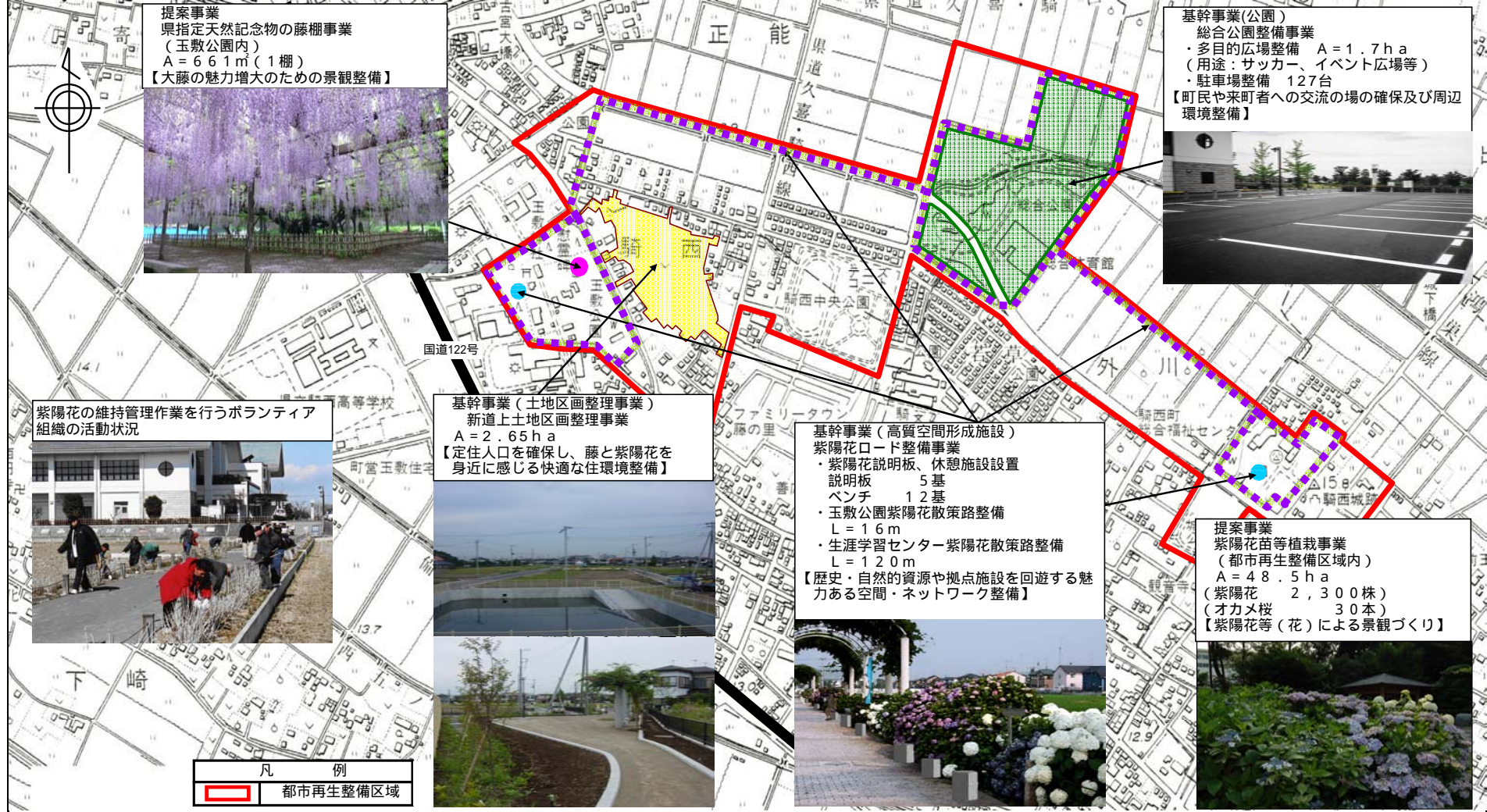
4) 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

5) 実施過程の評価	評価項目	実施内容	実施状況			今後の対応方針等
	モニタリング			予定どおり実施できた		
予定していなかったが実施した						
予定したが実施しなかった・できなかった						
住民参加プロセス			予定どおり実施できた			
			予定していなかったが実施した			
			予定したが実施しなかった・できなかった			
持続的なまちづくり	紫陽花の維持管理作業等を行うボランティア組織の構築	予定どおり構築できた				
		予定していなかったが構築した				
		予定したが構築しなかった・できなかった				

・暫くは同様な方法で、紫陽花ロードボランティアの会を維持・継続していく中で、活動内容や取り組みを拡げていきたい。
・紫陽花ロードボランティアの会に対する支援方を検討するとともに、会の自立運営を進める。

様式2-2 まちづくり交付金の成果及び今後のまちづくり

藤と紫陽花が彩るにぎわい交流地区（埼玉県騎西町） まちづくり交付金の成果概要						
まちづくりの目標	地域資源を活かし、藤と紫陽花のネットワークによる快適でにぎわいのあるまちづくりを行うとともに定住人口を確保する。	まちづくり交付金の代表的成果	藤祭り、紫陽花祭りの来場者（人）	30,000(H10)	70,000(H15)	70,000(H18)
			公共施設の利用者（人/年）	118,000(H12)	115,000(H15)	300,000(H18)
			地区内の居住人口（人）	800(H10)	800(H15)	900(H18)



今後のまちづくりの方策（改善策を含む）

商店街（中心市街地）の活性化
各種事業の整備により、取り戻してきたにぎわいを中心市街地にも拡げ、中心市街地の吸引力（人を集め、賑わいを生み出す）を高め、商業の魅力＝商店街（商業機能）の活性化を図り、併せて快適に過ごせる環境整備や中心市街地に来やすくなるための環境整備等の検討が必要であり、また、実現に向けた環境づくりとして、核になる組織(TMO等)体制を構築して行きたい。